

26) 中央検査部・輸血部臨床研修プログラム

研修医氏名

指導医氏名

I. 一般目標

病態と臨床経過を把握した上で、必要な検査を自ら実施したり、または適切な検査を選択してその結果を解釈できる。研修を通じて臨床検査技師との相互理解と信頼関係を築き、今後のチーム医療を円滑に行うことができる。

上記の目的のために、

1. 医師が自ら実施すべき基本的臨床検査法を習得する。
2. 検体検査がいかに行われているか理解した上で、それらを適切に選択し、結果を解釈できる。
3. 細菌検査や超音波検査など臨床症例を通じて技術を習得する。
4. チーム医療において、臨床検査技師と協調できる態度・習慣を身につける。

II. 行動目標

医療人として必要な基本姿勢・態度

II- (1) 病院の理念

	研修医評価	指導医評価
1) えきさい（導き、たすける）の精神を理解し行動できる	A B C D	A B C D
2) 基幹病院の医師として自覚をもって行動できる	A B C D	A B C D
3) 医療連携の重要性を理解し、適切に診療できる	A B C D	A B C D

II- (2) 患者-医師関係

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために、

	研修医評価	指導医評価
1) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。	A B C D	A B C D

II- (3) チーム医療

医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調するために、

	研修医評価	指導医評価
1) 上級及び同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。	A B C D	A B C D
2) 同僚及び後輩へ教育的配慮ができる。	A B C D	A B C D
3) 関係医療機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。	A B C D	A B C D

II- (4) 問題対応能力

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付けるために、

	研修医評価	指導医評価
1) 臨床上的問題点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる。 (EBM=Evidenced Based Medicineの実践ができる)	A B C D	A B C D
2) 自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。	A B C D	A B C D
3) 臨床研究や治験の意識を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。	A B C D	A B C D
4) 自己管理能力を身に付け、生涯にわたり基本的臨床能力の向上に努める。	A B C D	A B C D

II- (5) 安全管理

患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画するために、

	研修医評価	指導医評価
1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実践できる。	A B C D	A B C D
2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。	A B C D	A B C D
3) 院内感染対策（Standard Precautionを含む）を理解し、実施できる。	A B C D	A B C D

II- (7) 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために、

		研修医評価	指導医評価
1)	保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。	A B C D	A B C D
2)	医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。	A B C D	A B C D
3)	医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。	A B C D	A B C D

II- (8) 研修評価

研修全般に対する総合評価

		研修医評価	指導医評価
1)	仕事の処理	A B C D	A B C D
2)	報告・連絡	A B C D	A B C D
3)	患者への接し方	A B C D	A B C D
4)	規律	A B C D	A B C D
5)	協調性	A B C D	A B C D
6)	責任感	A B C D	A B C D
7)	誠実性	A B C D	A B C D
8)	明朗性	A B C D	A B C D
9)	積極性	A B C D	A B C D
10)	理解・判断	A B C D	A B C D
11)	知識・技能	A B C D	A B C D

III. 経験目標

A. 経験すべき診察法・検査・手技

III-A- (3) 基本的な臨床検査

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を、

- A・・・自ら実施し、結果を解釈できる。
- A以外・・・検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

		研修医評価	指導医評価
1)	<u>一般尿検査（尿沈査顕微鏡検査を含む）</u> ※	A B C D	A B C D
2)	<u>便検査（潜血、虫卵）</u> ※	A B C D	A B C D
3)	<u>血算・白血球分画</u> ※	A B C D	A B C D
A 4)	<u>血液型判定・交差適合試験</u> ※	A B C D	A B C D
A 5)	<u>心電図（12誘導）</u> ※、負荷心電図	A B C D	A B C D
A 6)	<u>動脈血ガス分析</u> ※	A B C D	A B C D
7)	<u>血液生化学的検査</u> ※ ・簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）	A B C D	A B C D
8)	<u>血液免疫血清学的検査</u> ※（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む）	A B C D	A B C D
9)	<u>細菌学的検査・薬剤感受性検査</u> ※ ・検体の採取（痰、尿、血液など） ・簡単な細菌学的検査（グラム染色など）	A B C D	A B C D
10)	<u>髄液検査</u> ※	A B C D	A B C D
A 11)	<u>超音波検査</u> ※	A B C D	A B C D

※必修項目：下線の検査について経験があること

* 「経験」とは受け持ち患者の検査として診療に活用すること

A の検査で自ら実施する部分については、受け持ち症例でなくてもよい

III-A- (4) 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施するために、

		研修医評価	指導医評価
1)	<u>採血法（静脈血、動脈血）</u> を実施できる。 ※	A B C D	A B C D

※必修項目：下線の手技を自ら行った経験があること

評価方法：A. B. C. Dの4段階とするが、オーダー入力画面では下記（ ）で示されている

・能力を問う項目

A (◎)：確実にできる、自信がある B (○)：だいたいできる、たぶんできる
C (△)：あまり自信がない、ひとりでは不安である D (×)：できない

・経験を問う項目

A (H)：11例以上 B (L)：6～10例 C (M)：1～5例 D (N)：0例

1. 研修指導体制

1. オリエンテーションでは輸血・採血・生理検査部門と臨床検査オーダーリング指導担当者が行う。
2. 選択研修時には、部長及び技師長と相談の上、希望する部門や研修スケジュールの調整を行う。
3. 選択研修時は、各部門責任者の指示にて担当臨床検査技師から研修を受ける。
4. 選択研修時の評価は、担当指導者の評価をもとに部長及び技師長が行い、初療室での評価は代表指導者が技師長に報告する。

2. 研修方略

1. 基本的検査法の習得は臨床検査技師の指導を受ける。
2. 講義とOJTを中心に行っていく。
3. オリエンテーション（検査部長もしくは技師長）
 - a. 自己紹介
 - b. 研修目的・実務・注意事項について
 - c. プログラムに沿った習得すべきポイント
4. 検体（一般・血液・臨床化学・免疫血清）検査
 - a. オーダリング方法の注意点
 - b. 採血時の注意点：検体量・血清情報（溶血・乳び）検体放置が、検査値に及ぼす影響
 - c. 各検査（尿検査・便潜血・髄液・血液・動静脈血ガス分析・臨床化学・免疫血清）の検査方法について
 - d. 基準値と結果の基本的解釈
 - e. 測定値コメント・注釈・パニック値について理解する
 - f. 検体検査点数の包括化について認識する。
 - g. 当院における感染症検査陽性扱いの基準
 - h. 針刺し事故の防止の啓蒙と針刺し事故発生時の対応をフローチャートで説明
5. 輸血検査
 - a. 輸血依頼時の注意点と当院における輸血の運用
 - b. 血液型判定及び交差適合試験の実技と説明
6. 生理検査
 - a. 生理検査の依頼方法及び注意点
 - b. 心電計の取扱い注意点と心電図記録の実技及び基本的な心電図診断
 - c. 超音波診断装置の取扱い注意点とプローブ選択について
 - d. 腹部領域での当院の基本的走査法と抽出のポイント
 - e. 心臓領域での基本的走査法・計測方法と抽出のポイント
 - f. 代表的な疾患の超音波画像パターンの認識と経験
7. 細菌検査
 - a. 細菌検査の依頼方法と検体採取時の注意点
 - b. 塗抹標本の作り方と主な細菌の顕微鏡での見え方
 - c. 血液培養採取時の注意点と当院の運用について
 - d. ガフキー陽性検体の鏡検
 - e. 当院における細菌検出状況や迅速細菌・ウィルス検査の検出状況
 - f. 薬剤感受性検査について
 - g. 希望により感染対策室での講義を受ける

8. 終了面接（検査部長または技師長）
 - a. 感想と要望
 - b. 終了後速やかに「自己評価表」を記載し提出する
 - c. 中央検査部研修レポートを提出する

3. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	実習（超音波検査）	実習（超音波検査・希望により感染対策）	実習（超音波検査）	実習（超音波検査）	実習（超音波検査）
午後	実習（検体検査・細菌検査・輸血検査・生理学検査の中から選択）	実習（検体検査・細菌検査・輸血検査・生理学検査の中から選択）	実習（検体検査・細菌検査・輸血検査・生理学検査の中から選択）	実習（検体検査・細菌検査・輸血検査・生理学検査の中から選択）	実習（検体検査・細菌検査・輸血検査・生理学検査の中から選択）

4. 研修評価項目

1. 研修医自己評価と指導医評価を規定に従い、研修終了後に速やかに入力する。形成的に評価を行う。
2. 研修に対する姿勢・コミュニケーション・医療人としての人間性について、検査部での研修期間について評価する。